

令和6年度 中央区立月島第二小学校 外部評価

評価委員： 川原崎武委員・角山良敬委員・小川美佐子委員・松本昌之委員  
加藤則道委員・村上公一委員・仲佐直子委員・要田章委員

作成者： 要田章委員

評価時期 令和7年2月

1 重点目標の評価

**重点目標1について<確かな学力を身に付けさせる教育活動>**

- 教科担任制の研究発表会に参加し、教科担任制は個別の支援ができること、中学校と学習環境等が似ていると感じた。子どもが進学したときに違和感がなくなるよい取組であり、大切なことだと感じた。今後も継続していただきたい。
- 私の小学生時代は図画工作科と音楽科の先生だけが専科の先生だった。50年前、自分の子どもが塾に通うようになったとき、子どもからの話や授業参観の姿から、学校と塾との差を感じた。教科担任制になるとそれが解消できるように感じた。50年経ってよいシステムができたと感じ、今後に期待している。先生方にも子どもにもよい方向に向かうのではないかな。

**重点目標2について<豊かな心を育む教育活動>**

- 学校に来たときに廊下を歩いていると子どもたちは挨拶をしてくれている。先生達の前では恥ずかしいの気持ちもあるのではないかな。挨拶は子どもたちなりに考えて行なっているため、あまり厳しく言わなくてもよいと感じる。校内と校外で子どもたちの様子も違い、また、自分が子どもの頃を思い返すと、校長先生や担任の先生には挨拶していなかったが、人とすれ違ったときには挨拶をしていたので、そういう子どもたちがいることを先生方も理解してほしい。
- 担任との相性もあるので、子どもなりに相談しやすい先生が選べることに教科担任制のよさを感じた。また、いろいろな先生との関れることが、中学校の前段階となると感じた。

**重点目標3について<健やかな心と体を育む教育活動 >**

- 「健やかな心と体を育む教育活動」については、学校全体で更に取り組んでいく必要性を感じている。
- 学校が楽しくない子が一定数いることは、何とかしてあげたい。また、「毎日学習している」と回答した児童が22パーセントだが、「毎日学習していない」と回答している児童がいる。勉強が楽しくないから学校が楽しくないということもあるかもしれない。

2 今後の改善に向けた意見

- 今年度の教科担任制の研究発表から、子どもたちにも教員にもメリットがあることが分かったので、今後も継続してほしい。
- 「とうきょう すくわくプログラム」を生かして、幼稚園が大切にしている非認知能力をさらに育んでほしい。小学校でも目に見えない非認知能力を育んでほしい。目に見えにくく、分からないものなので、使える予算をたくさん使って子どもたちに還元してほしい。
- 挨拶に対する子どもたちの思いも理解した上で指導してほしい。また、保護者として子どもの前で挨拶する姿を見せていきたい。